

科目	理学療法評価診断学演習	担当	林 久恵	履修学年	3年
時間数	90分×時限×24回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

**【授業目標・到達目標】**  
 理学療法評価診断学演習では、脳血管障害、運動失調、パーキンソン病、骨関節障害、脊髄損傷などの病態および障害について学修し、対象者の障害像を把握するために必要な検査測定を適切に実施できることを到達目標とする。

**【履修注意】**  
 1・2年次に受講した基礎医学、臨床医学の知識を活用しながら学んでもらいたい。  
 グループワークを行う回もあるため、遅刻・欠席のないように注意する。

**【評価方法】**  
 試験(筆記50%、実技20%)・出席状況(10%)・発表 授業態度(10%)・小テスト(10%)で総合的に評価する

**【試験について】**  
 口頭試問・実技試験を実施する。

**【予習・復習】**  
 学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要。

**【教科書】**  
 書籍名:「理学療法評価学 改訂第4版」(2年次に購入済み) 著者: 松澤 正 他 出版社:金原出版株式会社  
 書籍名:「姿勢・動作・歩行分析 第1版」 監修:臨床歩行分析研究会 編集:畠中恭彦 出版社:羊土社

**【参考書】**  
 「ベッドサイドの神経の診かた」南山堂、「理学療法評価学Ⅱ」中山書店

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1・2	オリエンテーション 実技①	理学療法評価Ⅰ・Ⅱの復習, 評価の手順・障害別評価の復習実技:筋緊張・腱反射・病的反射の診方
3・4	動作分析①②	動作分析を理解する演習:動作分析(健常者の寝返り・起き上がり・立ち上がり動作)
5・6	動作分析③④	演習:動作分析(健常者の立位・歩行動作)演習:動作分析(その他の動作)
7・8	ADL・関節リウマチの評価	ADL評価, 関節リウマチの病態と理学療法評価を理解する実技:関節リウマチの評価
9・10	変形性股関節症	変形性股関節症の病態と理学療法評価を理解する演習:変形性股関節症患者の動作分析から必要な評価項目を列挙する
11・12	変形性膝関節症・疼痛の評価	変形性膝関節症の病態, 慢性疼痛の評価を理解する演習:変形性膝関節症患者の動作分析から必要な評価項目を列挙する
13・14	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の病態を理解する演習:大腿骨頸部骨折患者の動作分析から必要な評価項目を列挙する
15・16	片麻痺	片麻痺の全体像把握, 病期別特徴, 理学療法評価を理解する演習:片麻痺の動作分析から必要な評価項目を列挙する
17・18	パーキンソン病	パーキンソン病の病態と理学療法評価を理解する演習:パーキンソン病の動作分析から必要な評価項目を列挙する
19・20	脊髄損傷の評価	脊髄損傷の病態と理学療法評価を理解する
21・22	問題点の抽出, ゴール設定	問題点の抽出, ゴール設定の捉え方を理解する(グループワーク)
23・24	まとめ・試験	疾患別評価の総括, 試験を実施する
13		
14		
15		
16		